



若葉小だより

特別号

令和 6年 2月 1日
調布市立若葉小学校
校長 内藤 みゆき

HP <http://www.chofu-schools.jp/wakaba-sho/> E-Mail wakaba-sho@chofu-schools.jp

60周年スローガン『いつまでも変わらない 笑顔かがやく わかばっ子』



「令和 5 年度 若葉小学校学校評価アンケート」について（集計結果等）

表題の件についてご報告させていただきます。保護者、地域の皆様にはご多用の中、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。本校では、学校・家庭・地域の連携を大切にしながら教育活動を推進していきたいと考えており、学校生活の主役である子どもたちの参画意識や主体性を育てていきたいとの観点から、児童（3～6年生）・保護者及び地域・教職員の三者で同じ内容のアンケートを実施しております。

以下、アンケートへの回答に対する結果と考察をまとめましたので、ご覧ください。これを踏まえ、次年度の教育活動をさらに充実させるべく教育計画を立案してまいります。

引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。

集計結果 保護者からの回答 501件【回答率 69%】

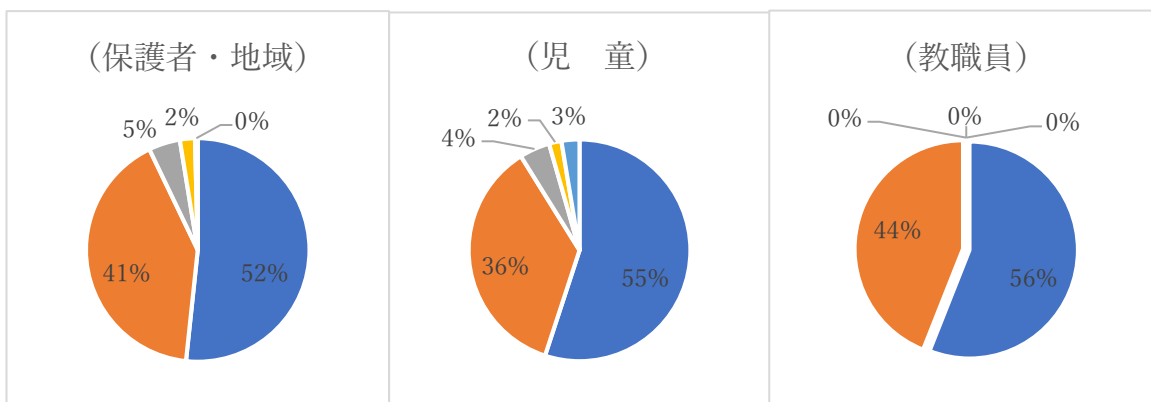
地域（学校関係者評価委員、学校評議員）からの回答 11件【回答率 85%】

児童（3～6年生）からの回答 496件【回答率 81%】

● とても思う ● 思う ● あまり思わない ● 思わない ● わからない

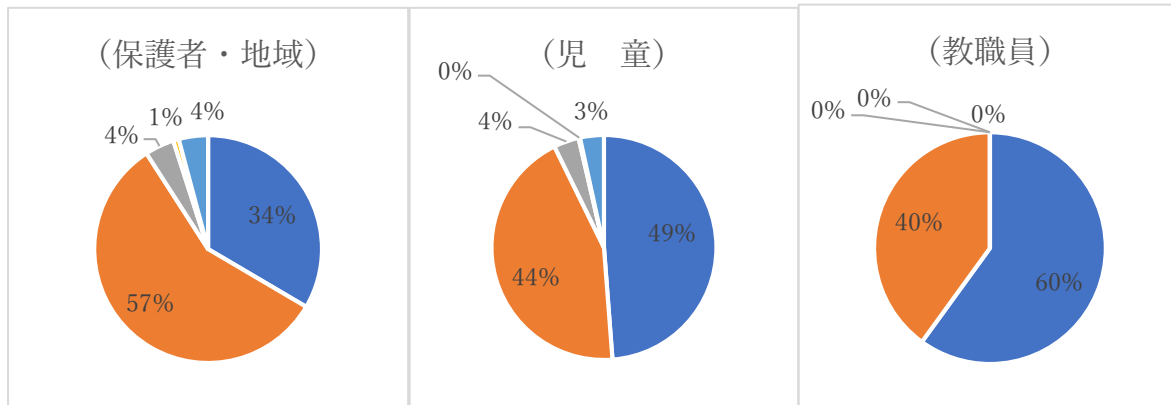
◎ 以下、円グラフは、左より順に「保護者及び地域」「児童（3～6年生）」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

①【学校は楽しい】学校の友達に会ったり、日常生活を送ったりすることを楽しみにしながら学校に行っている。



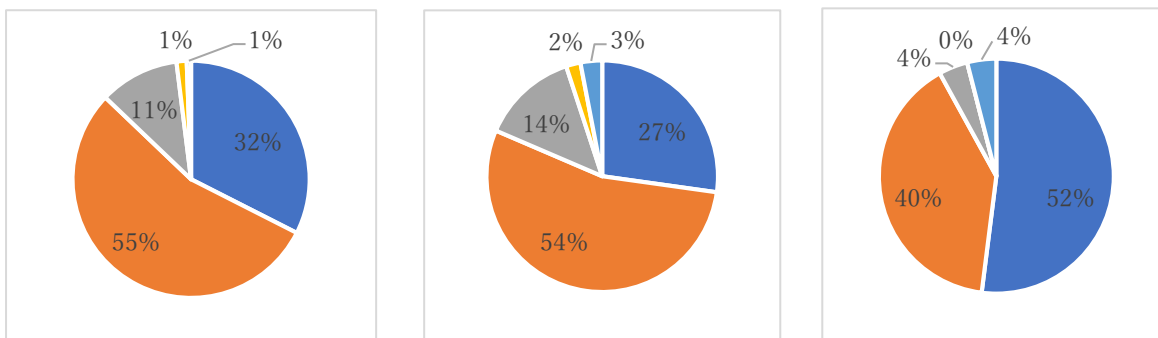
3者ともに90%越えの肯定的評価です。引き続き学校生活が児童にとって楽しいものであるよう目指していくとともに、「あまり思わない」、「思わない」を選択している児童がいることを真摯に受け止め、各学年・学級できめ細やかな見守りや支援、相談体制の充実に努めていきます。

②【自他の尊重】自分と他者とは違いがあることを理解し、多様性を尊重しながら互いを大切にしようとしている。



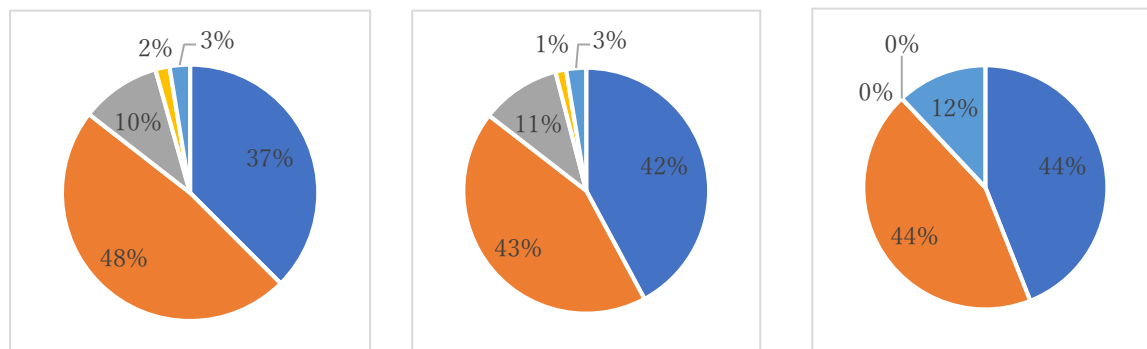
年3回の「ふれあい月間」、12月の「いのちと心の教育月間」、道徳の授業をはじめ、日頃より人権に関わる教育や学校教育目標の一つである「思いやりのある子」の育成に力を注いでいます。今後も、自分とともに友達や周りの人を大切にする心を育てていきます。

③【基本的な生活習慣】決まりや約束を守る意識をもっており、挨拶をしたり時間を守ったりするなどの基本的な生活習慣が身に付いている。



児童の肯定的評価が81%であり、基本的な生活習慣の一層の定着を図りたいと考えます。挨拶、靴箱の整頓など高学年が手本となる姿勢を示しているため、その姿が全校に向けてよい影響が広がるよう下学年へ声を掛けていきたいと思えます。全校朝会で紹介する週ごとの生活目標に対し、各学級で学年の発達段階に応じた取組を行い、週の最終日に振り返りをするなど、創意工夫していきます。

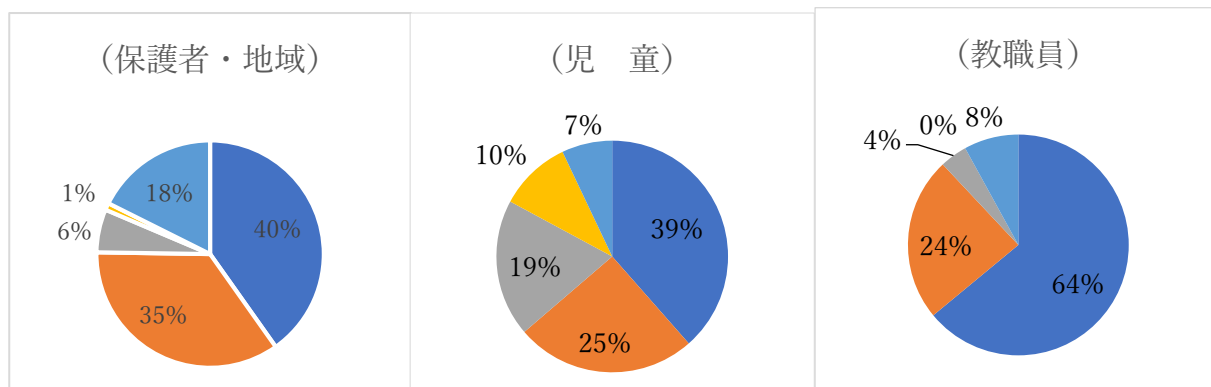
④【基礎的な学力】基礎的な学力を身に付け、「わかった」「できた」といった達成感を味わっている。



保護者・地域と児童の肯定的評価が85%と一定の評価を得ましたが、「あまり思わない」、「思わない」が12%である実態を鑑み、個別最適な学びと協働的な学びにおける授業改善やICT機器の活用など、教員個々の授業力の向上を目指した研究・研鑽に努めていきます。

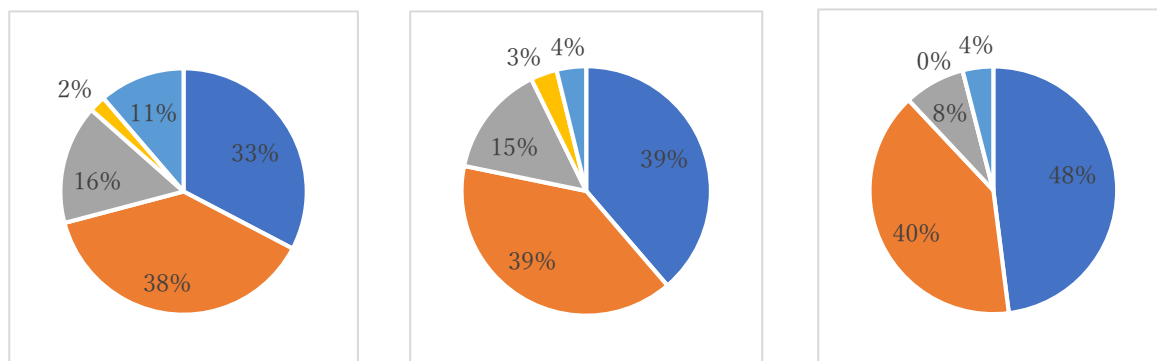
⑤【算数科習熟度別の指導】算数科での習熟度別による指導は学習効果があると思う。

(3～6年生回答)



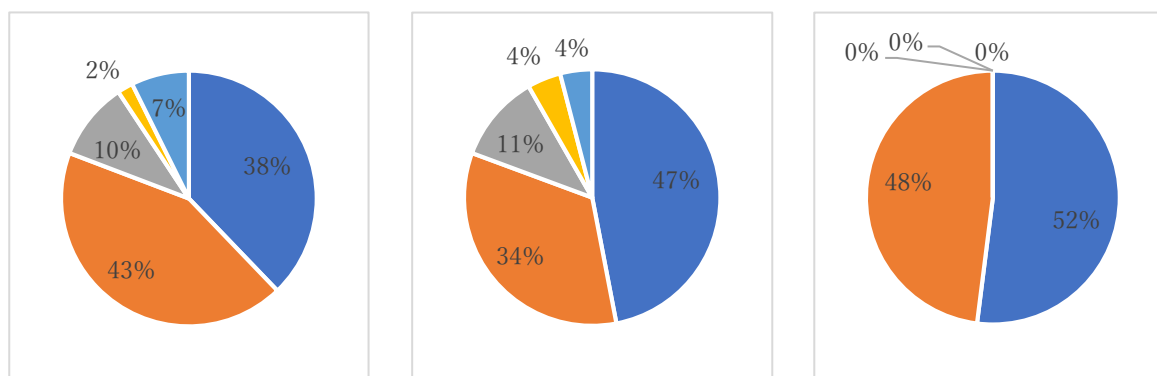
3、4年生においては教職員の病気休職に伴い、11月以降少人数での習熟度別学習が予定通り行えず、ただ今代替の教員の確保を目指しているところですが、人手不足の影響から目処は立っておらずご迷惑をお掛けしています。大変申し訳ありません。算数は、系統性が強く、学力的な差が出やすい教科ですので、各学級においても学習内容を確実に身に付けられるよう指導していきたいと思っております。*現在5、6年生は、少人数での習熟度別学習を行っています。

⑥【体験的な学習活動】地域の特色を生かした教材やゲストティーチャーによる出前授業等、体験的な学習活動を充実させている。



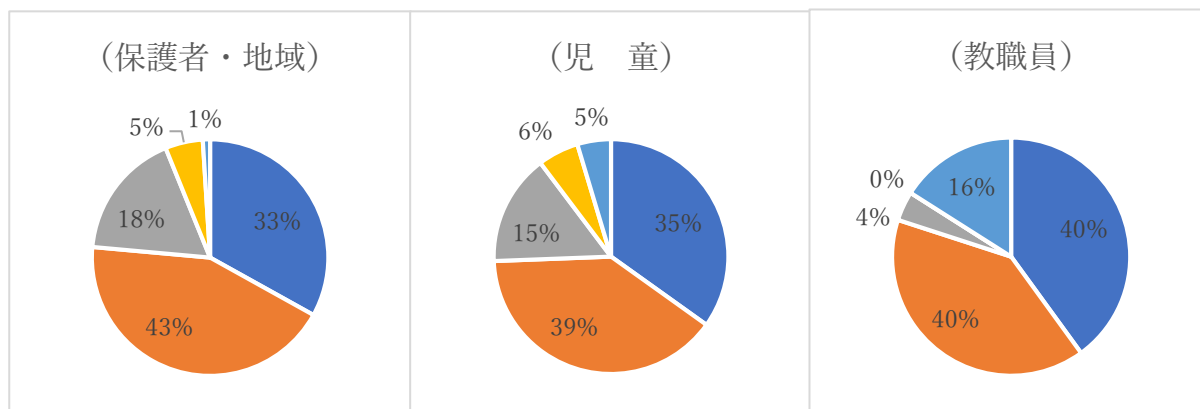
コロナウイルスの5類移行に伴い、今年度は校外学習やゲストティーチャーを招いての学習をほぼ予定通り行うことができました。6年生のキャリア教育においては、保護者の皆様から直接お話を聞き自分の生き方について考える学習を新設するなど、新たな体験的学習をスタートさせています。引き続き、保護者や地域の皆様とも連携しながら創意工夫ある学習活動に努めていきます。

⑦【褒められている】周囲から認められたり褒められたりする経験をしており、主体的な活動への動機付けになっている。



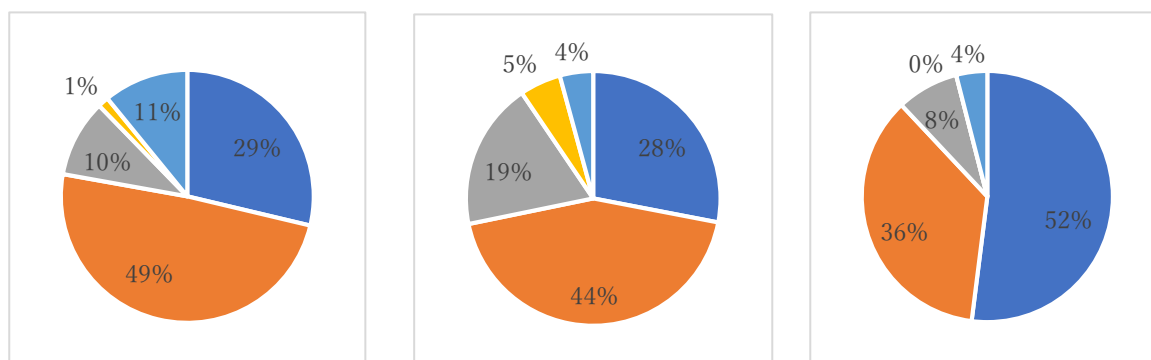
児童の自己肯定感を高め、学校が児童にとって安心できる居場所であるよう、日々の授業や学校生活の中で教師が褒めたり児童同士で認め合ったりする場面の設定を大切にしています。引き続き、一人一人の児童理解に努めるとともに、児童が活躍できる場づくりを工夫し、教員による的確な支援や声掛けを通して自己肯定感や自己有用感を育成していきます。

⑧【家庭学習】宿題等の家庭学習にしっかりと取り組み、学習習慣を確立させている。



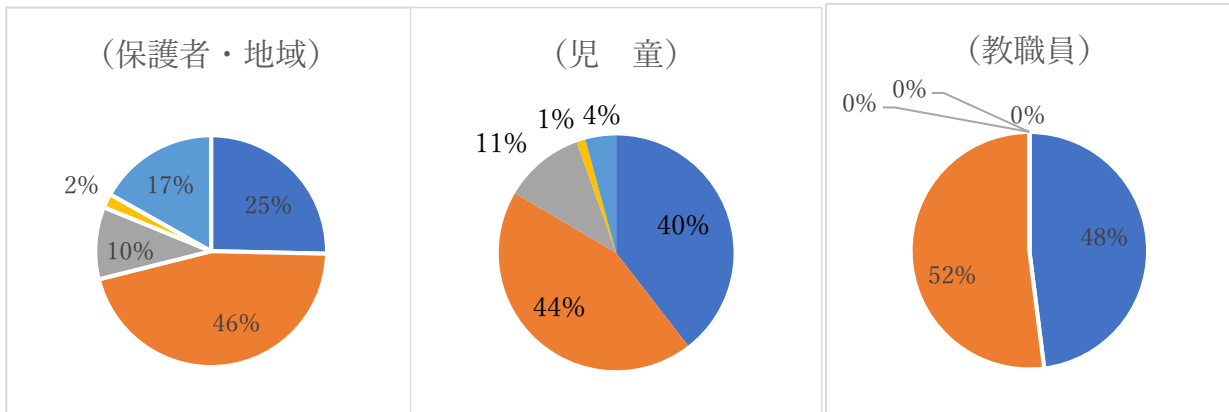
保護者・地域、児童ともに70%台となっています。上学年に掛けて学習習慣の確立を図るため、下学年でもその素地となる家庭での学習を大切にしてほしいと考えます。宿題や自主学習などにしっかり取り組めるよう声を掛けていきます。家庭においても、落ち着いて取り組める環境作りや意欲の喚起などをお願いいたします。

⑨【健やかな体作り】校内研究を軸とした体育的な活動の充実、保健指導の実施、食育の推進などを通して、健やかな体を作る取り組みや指導を行っている。



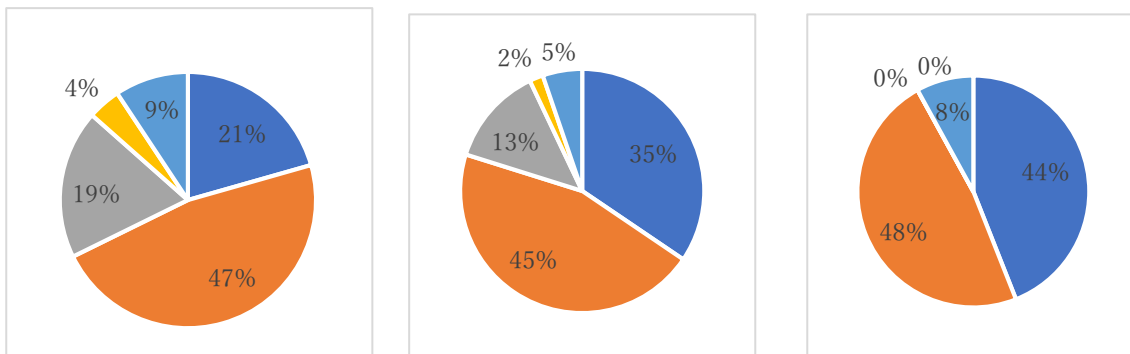
本校の校内研究のテーマとして体育健康教育の推進に取り組み、授業や休み時間における体育的活動の充実を目指し、全教員で研究を進めています。ゲストティーチャーによる陸上教室や体力テストの結果分析、「わかば元気アップカード」の活用、第四中学校での校庭遊びなどを通しての取り組みが児童の健やかな体作りにつながるよう一層研究を深めていきます。

⑩【安全・安心な環境】安心・安全な環境を整えるために校内施設や設備等の整備や保守に努め、安全に関する知識や実践力を身に付けさせる指導を行っている。



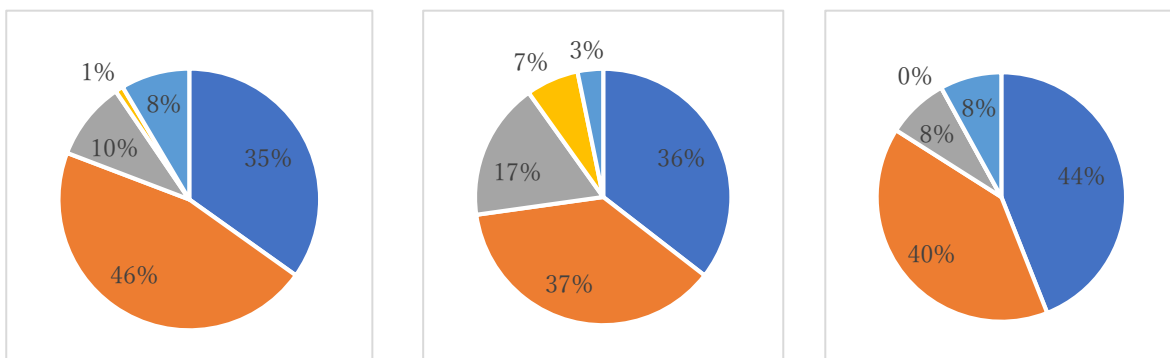
日常的な点検及び即時対応とともに、月に一度、全教職員の分担による複数名での安全点検を行っています。火災や地震、不審者対応などを想定した避難訓練を月に一度実施し、訓練前の事前指導と訓練後の事後指導を学年の発達段階に応じて行っています。今後も、万が一の災害や事故への備えを確実に進めていきます。

- ①【言語活動】 授業中の意見交流など、言葉による表現活動への意欲や技能が向上している。また、時と場に応じた適切な言葉を使っている。



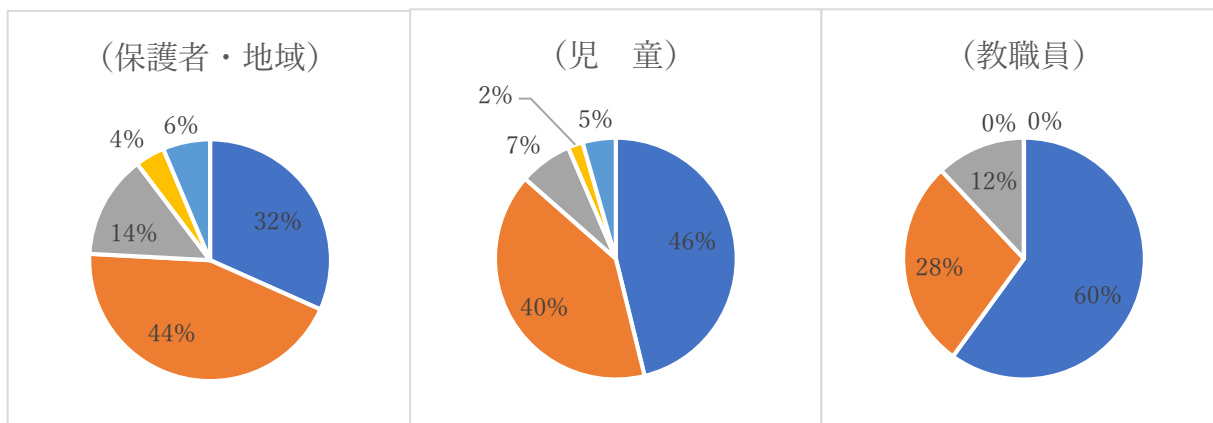
数年に渡ったコロナ禍における表現活動の制限が解禁され、どの教科の授業においても、隣児童やグループの仲間との話し合い活動及び意見交流が活発に行われているものの「思わない」「あまり思わない」の割合が高く、一層力を入れていく必要があると感じています。言葉の学習や言葉を用いてのコミュニケーションの場の充実を、国語科をはじめ各教科の授業の中で工夫していきます。あわせて教育活動全体を通じ、時と場に応じた言葉遣いを指導していきます。

- ②【読書活動】 読書月間や図書委員会による集会、毎週の「おはよう読書」等を実施し、読書活動を充実させている。



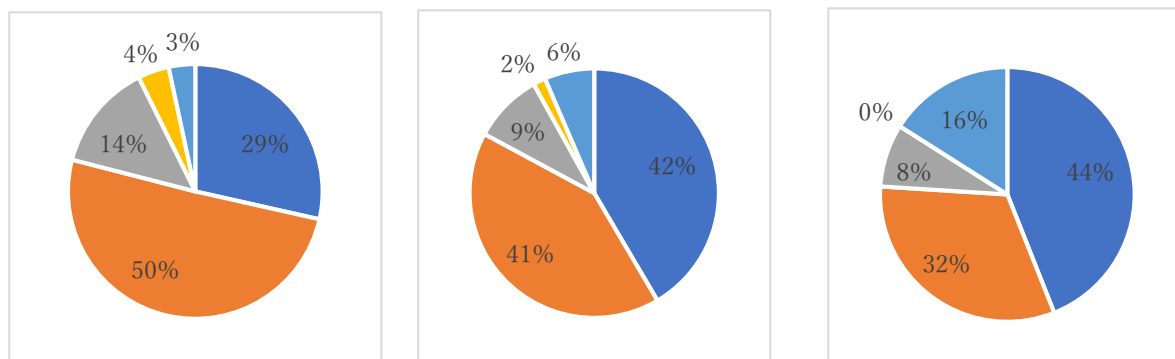
保護者の皆様による読み聞かせ、読書月間時の図書委員による集会など、児童が本に興味をもったり読書の楽しさを味わったりする取組により、休み時間にも本に親しむ児童の姿が見られる反面、読書はあまりしないとの声も聞かれます。「おはよう読書」の時間を有効に活用したり、読書の楽しさ・大切さを気付かせたり、本に親しむ児童の姿を目指し創意工夫ある活動を模索していきます。

⑬【ICT 機器の活用】 iPad 等の ICT 機器を積極的に活用しながら教育活動を行っている。



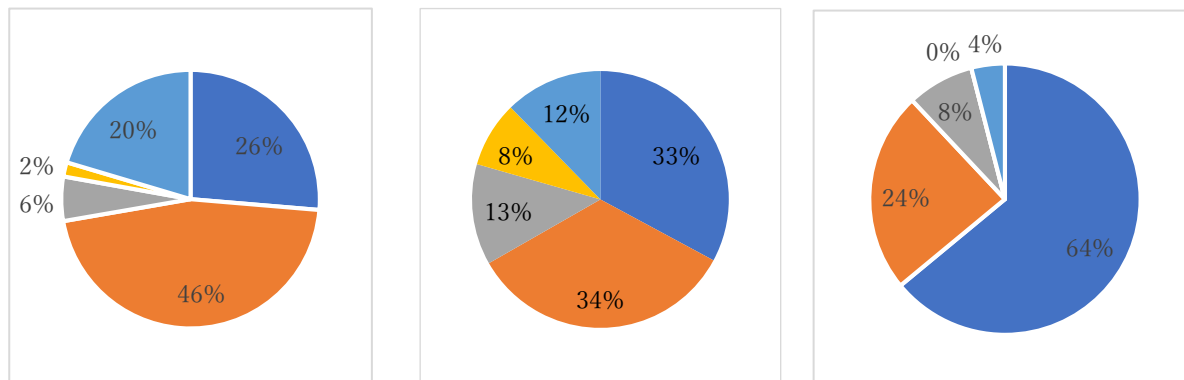
個別最適な学びや協働的な学びにおける児童用タブレット端末を活用した授業の進め方を教員同士で研修したり情報共有したりしながら、各学年で同質の授業を行うことができるよう努めています。その時間の授業の内容に応じて、黒板を板書（チョークで書いて残しておくもの）とスクリーン（動画や画像を提示するもの）の二本立てにするなど、ICT 機器の特徴やよさを活かした授業の在り方を今後も研鑽していきます。

⑭【ICT 機器のルール】 家庭では、学校が示した ICT 機器のルールを参考にしながら、iPad 等の ICT 機器や SNS の使い方のルールを定め、守らせている。



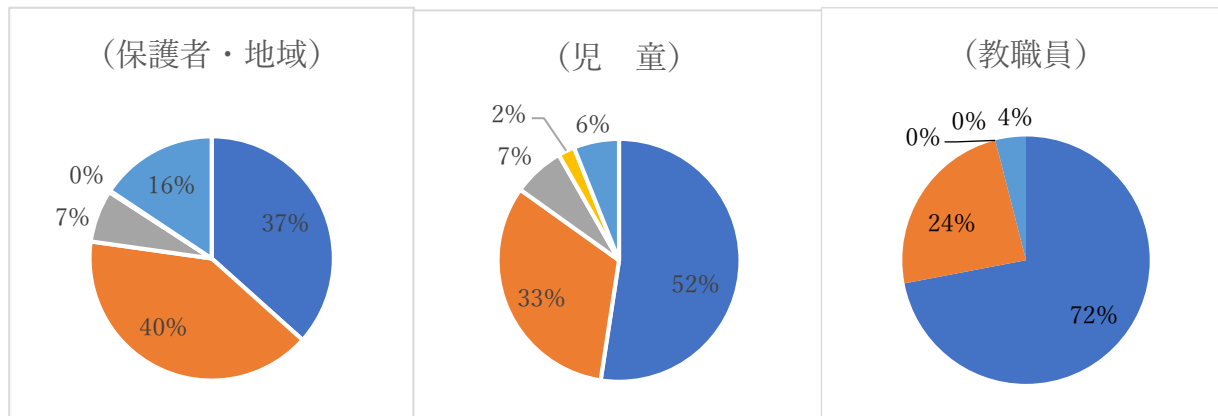
学校共通のルール「タブレット活用のルール」（低・中・高学年用）を定めています。学期に数回、ICT 朝会を行い、担当教員より iPad の使い方に関する内容やルールの確認を行い、正しく有効に使用できるよう努めています。保護者会や個人面談等を通じて、保護者の皆様から家庭での使用の様子を伺いながら実態に応じたルール作りや指導を行うなど、学校と家庭で連携しながら進めていきたいと考えています。

⑮【相談体制】 スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、のがわ教室巡回指導教員等の人材を活用し、一人一人のニーズに合わせた相談しやすい体制を整えている。



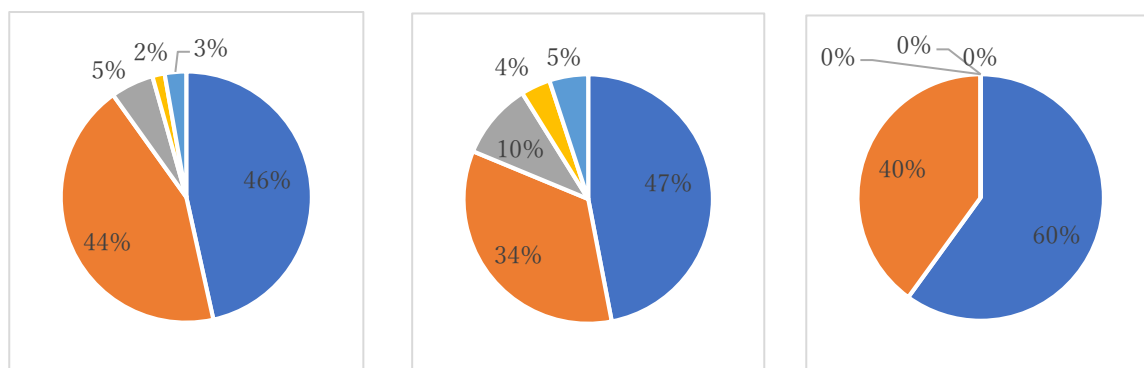
保護者・地域、児童ともに「わからない」の回答が多く、相談体制の周知及び案内の不足を感じています。各種お便りや保護者会などを通じ、校内の相談体制を分かりやすくご案内できるように努めます。児童には、担任や学年、専科など身近な教員以外にも、スクールカウンセラーをはじめ様々な相談相手、相談先があることを定期的に伝えるようにします。

⑯【地域学校協働本部】地域学校協働本部の活動（漢字検定・花壇整備・地域人材を活用したボランティア・教員と連携したゲストティーチャーの招へい等）が、教育活動や教育環境の充実につながっている。



学校と地域の教育材をつなぐ架け橋として、地域学校協働本部に活躍いただいています。地域のことに長けており、授業のニーズに合ったボランティアやゲストティーチャーの紹介やその手続き、漢字検定や交通安全教室、1年生の放課後学習教室の実施などを行っていただくことで、様々な活動の充実が図られています。

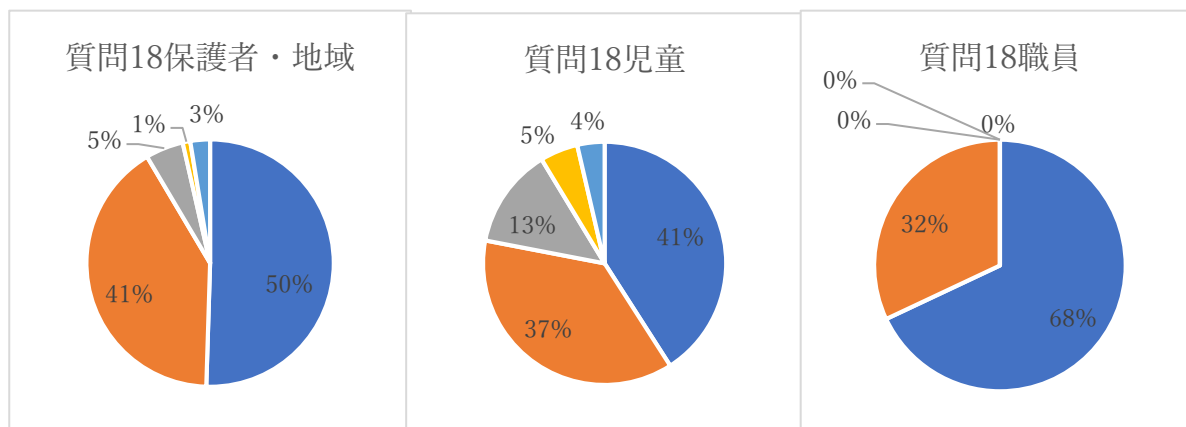
⑰【開かれた学校】施設面等の課題がある中でも工夫しながら学校行事や学校公開等を実施し、開かれた学校を目指している。



「とても思う」の割合が高く、学校公開や第四中学校との連携による校庭借用、音楽集会（発表担当学年）の公開等に、一定の評価をいただいております。引き続き、大規模校の特徴を活かした行事の進め方や公開の仕方等を検討し、児童の安全安心な学校生活を第一に、保護者・地域の皆様とともにある開かれた学校を模索していきます。

● とても思う ● 思う ● あまり思わない ● 思わない ● わからない

⑱【情報発信】ホームページ（「学校生活の様子」など）の更新、学校だより、学級通信、安全安心メール、保護者会等を通して学校の様子や情報を発信し、保護者・地域の方々との連携を大切にしている。



保護者・地域の肯定的評価が高くなっており、児童の学校生活の様子を多くの皆様にご覧いただけていますこと、嬉しく思います。学校は地域の中にあり、保護者・地域の皆様と三者一体となり児童を育てたいと考えています。引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

いただきました多くの貴重なご意見を真摯に受け止め、令和6年度に向けて、全教職員で教育活動の振り返りと改善方法の検討に取り組んでいきます。

これからも学校、家庭、地域の連携のもと、児童が安全で楽しく学校生活を送り、健やかに成長できるよう努めてまいります。ご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。